

# お金は銀行が 創っているの？



よくわかる  
債務貨幣と公共貨幣の仕組み

下田直能／著

## 「信用創造」を やめてみたらどうでしょう？

……現代貨幣システムの問題点をわかりやすく解説。

〈お金には二つの種類しかありません。私たちを経済的に支配し、不幸にする「債務貨幣」と、私たちを自由にし、幸せにしてくれる「公共貨幣」です。本書はこの二つのお金の仕組みを平易に解き明かしてくれます〉

山口薫氏推薦！

同時代社

# のポイント

# 『「下田直能:お金は銀行が創っているの? よくわかる債務貨幣と公共貨幣の仕組み,同時代社,2022.3.30」のポイント』

この資料は、「お金は銀行が創っているの?」のポイントをわかりやすく記述したものです。本全体を、内容のまとめり毎に20の項目に分け、独自に項目名を付し、1項目を1ページにまとめてあります。左側には、本に掲載された図表をそのまま使い、右側には、フローチャートなどを用いて本文の内容を簡潔に示してあります。

## 【目次】

### 第1章 お金の仕組みはどうなっているの？

- 1-1. 銀行が預かった預金(P11～P17)
- 1-2. 預かったお金の貸し出し(P18～P27)
- 1-3. 銀行振り込み(P27～P32)
- 1-4. 銀行預金の信用創造[現金を貸し出す](P33～P43)
- 1-5. 銀行預金の信用創造[預金を貸し出す](P43～P46)
- 1-6. お金について(P47～P65)

### 第2章 お金の仕組みの何が問題なの？

- 2-1. お金の流通量と景気変動(P69～P79)
- 2-2. 金融政策(P79～P86)
- 2-3. 財政政策(P86～P94)
- 2-4. 財政政策の問題点(P94～P105)
- 2-5. お金を創ると格差が広がる(P105～P110)

### 第3章 お金の仕組みをどうすればいいの？

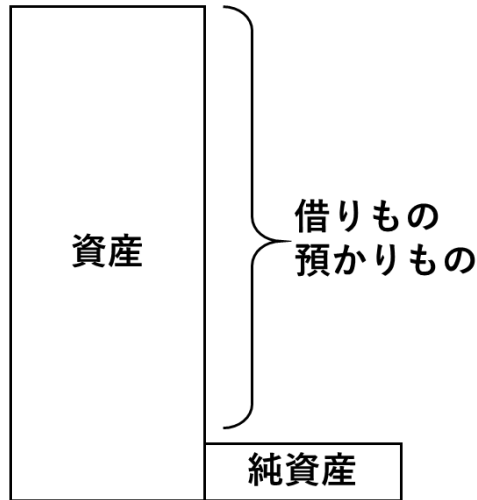
- 3-1. 信用創造の廃止(P113～P118)
- 3-2. 債務貨幣とは(P118～P122)
- 3-3. 公共貨幣システムへの移行(P123～P131)
- 3-4. 公共貨幣の発行「予算執行」(P131～P136)
- 3-5. 公共貨幣の回収「徴税」(P136～P146)
- 3-6. 財政節度とは何か(P146～P156)
- 3-7. 公共貨幣システムの実施体制と心への影響(P157～P168)

### 補章 お金にまつわるいくつかのお話

- 補-1 MMT及びブロックチェーン技術について(P171～P186)

# 第1章 お金の仕組みはどうなっているの？

図1-1 銀行資産と純資産



### 1-1. 銀行が預かった現金 (P11~P17)

○銀行の資産のうち、95%は借りたものや預かったもの

○預かったお金（現金）は銀行の資産（銀行のもの）←預けた人のものではない。

※預かったお金は銀行のものなので、人に貸すことができる。（他人のお金を貸し出すことはできない）

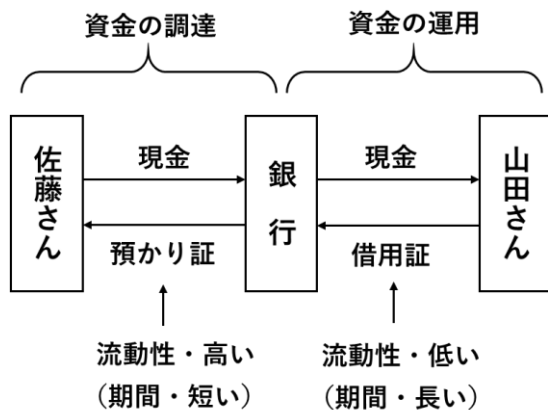
※銀行のものになる理由

民法上の「消費寄託」にあたる。

・あるものを預かった者がそれを使ってしまっても（消費しても）、それと同じ種類のものを同じ数だけ返せばよいという預け方。預かる側に所有権は移転する。

○銀行は「希望があればいつでも預かった現金と交換する」と約束して、預かり証（預金通帳）を発行する。

図1-2 流動性リスク



(資金の運用と調達の期間のミスマッチ)

## 1-2. 預かったお金の貸し出し (P18~P27)

○要求すればいつでも引き下ろすことができる預金（**要求払い預金**＝当座預金及び普通預金）と引き換えに預けた現金を、銀行が貸し出してしまったら...



銀行は預金者から現金化要求があったときに、引き渡す現金が無いので困ってしまう。

・通常時

・**大数の法則**により、預金者全体のわずかな割合の人達しか現金化要求してこないことがわかっているので、誰かが現金化要求してきたら他の人から預かった現金を渡せばよい。



・非常時（銀行の経営がうまくいっていないという情報が流れたとき）

預金者が一斉に銀行預金を現金に替えようと銀行に押しかける事態（**取り付け騒ぎ**）になり、銀行は払い戻しができなくなる。

○現金を預かるとき（**資金の調達**）は、いつでも現金に替える約束をしているので流動性が高い（現金化までの**期間が短い**）が、現金を貸すとき（**資金の運用**）は、返済までの期間が長いので流動性が低い（現金化までが**長い**）。



銀行特有の**危険（リスク）**に晒されている

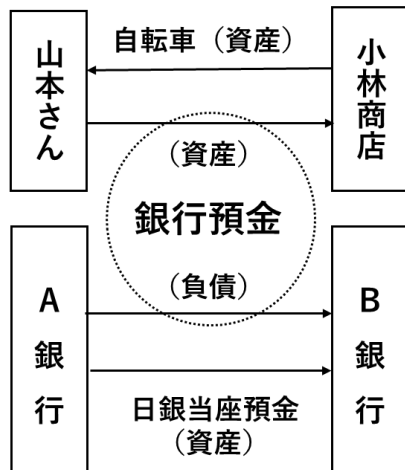
**大数の法則**...繰り返し起こる事象の**数が大きくなると一定の確率**が決まってくる

**預金準備率**...銀行預金の総額にたいして日銀に預けておかなければならない金額の比率

図1-3 銀行の資産・負債・純資産  
(バランス・シート)

資産	負債
	純資産

図1-4 銀行預金のお金としての流通  
(銀行振込)



### 1-3. 銀行振り込み (P27~P32)

○銀行振込は、銀行に預けた現金ではなくて、現金を預けるかわりに受け取った銀行預金(預かり証)を相手先に支払っている。

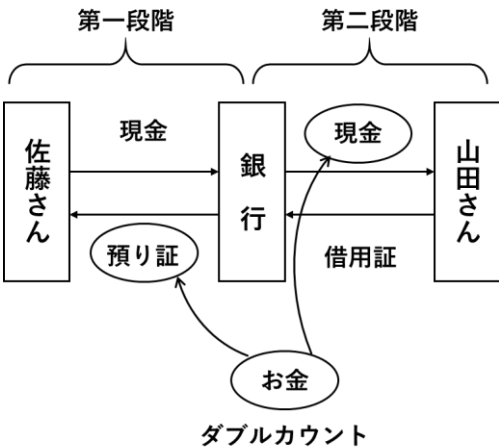
売買をした人から見ると

- ・ 山本さんが自転車の代金として小林商店に10万円の銀行振り込みをする。
- ↓
- ・ 山本さんの銀行預金が10万円減って、小林商店の銀行預金が10万円増える。

銀行から見ると

- ・ A銀行は返すべき義務が減り、B銀行は返すべき義務が増える。
- ↓
- ・ A銀行はB銀行へ10万円を支払う必要が出てくる。
- ↓
- ・ A銀行の日銀当座預金を10万円減らし、B銀行の日銀当座預金を10万円を増やす。
- ・ **日銀当座預金**  
各銀行が日銀内中に開設している口座に入っている預金。日銀が銀行から債権を買ったときなどに代金が振り込まれる。

図1-5 銀行預金の信用創造  
(預かった現金を貸し出す)



## 1-4. 銀行預金の信用創造 [現金を貸し出す] (P33~P43)

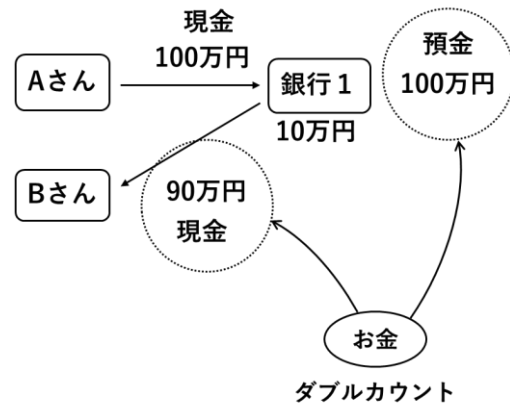
○銀行が佐藤さんから預かった100万円をそのまま山田さんに貸し出す。

↓  
山田さんに貸し出された現金100万円が市場に流通して再びお金になるので、佐藤さんが持っている銀行預金100万円と合わせてお金の総額が200万円に増える。

↓  
現金は増えも減りもしないが、お金の総額は貸し出した額だけ増える

↑  
信用創造

図1-7 教科書で教える信用創造の本質



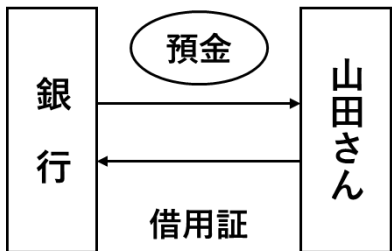
○預けられた現金の一定比率を残して貸し出しをくり返すとお金が増えていくという「教科書で教える信用創造の説明」はおかしい。

↓  
ある条件のもとでの信用創造と預金準備率との関係を表す計算問題となっている

↓  
要求払い預金がお金(お金の代用品)になったことや貸し出した現金と要求払い預金がダブルカウントされていることなど信用創造の本質が説明されていない。

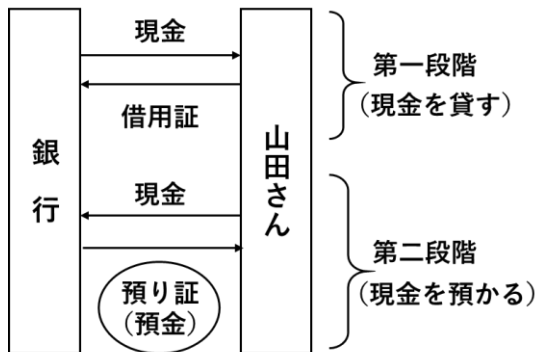


図1-8 銀行の信用創造  
(預金を貸し出す)



(万年筆マネー)

図1-9 銀行の信用創造  
(貸した現金を預かる)



(万年筆マネーの分解図)

### 1-5. 銀行預金の信用創造 [預金を貸し出す] (P43~P46)

○銀行は現金を貸し出すことはほとんどなく、銀行預金を貸し出している。

↓

銀行預金と借用書を等価交換する。

↓

預金通帳に金額を書き込むだけで預金を創造できる。(万年筆マネー)

…ジェームス・トービン

○プロセスの分解

①山田さんが銀行から現金を借りて借用書を差し出す。

↓

②山田さんが現金をその場でただちに銀行に預ける。

↓

③山田さんは、その分の預かり証を受け取る。

※現金の受け渡しは省略され、借用書と預かり証だけが残る。

## 1-6. お金について (P47~P65)

○お金はモノとしての性質を持たない単なる数値として認識される。



紙である紙幣と金属である硬貨は、同額であれば同じ価値を持つ

○「ある特定のモノ（媒体）がお金（価値を表す数値情報）である」という合意（共通認識）があれば、お金になる。



現在では、その合意は法律に基づく。⇒法定通貨

○政府は硬貨を発行し、様々な過程を経て、貨幣発行益を得ている。



・発行した貨幣の額面から製造原価を差し引いた金額

○今の日本で流通しているお金の大部分は法定通貨ではなく、信用創造によって生み出される要求払い預金。



・銀行が破たんした途端に、その銀行の預金がお金として通用しなくなる不安定なもの

図1-10 硬貨の貨幣発行益の実現プロセス

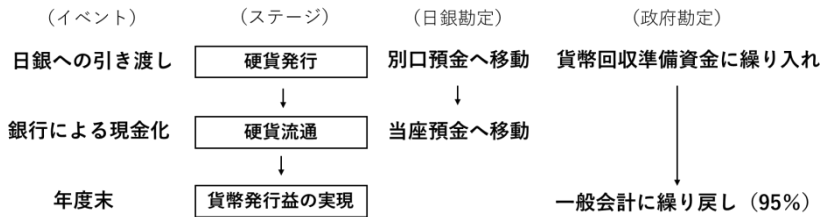


表1-1 お金の種類とその特徴・割合

お金の種類	発行者	法貨	発行残高	割合(%)
硬貨	日本政府	○	約4.9兆円	約0.6%
紙幣	日本銀行	○	約109.2兆円	約13.0%
要求払預金	市中銀行		約726.5兆円	約86.4%
発行通貨の合計額			約840.6兆円	

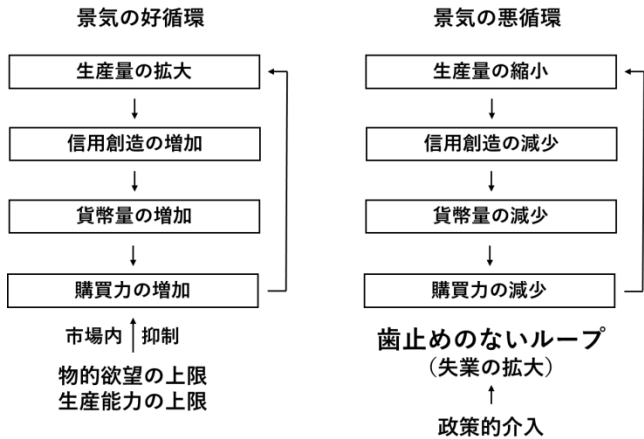
※「日本銀行 時系列統計データ検索サイト」で抽出

※ 数値は2020年3月のもの

※ 硬貨は貨幣流通高、紙幣は日銀券発行高、要求払預金は預金通貨

## 第2章 お金の仕組みの何が問題なの？

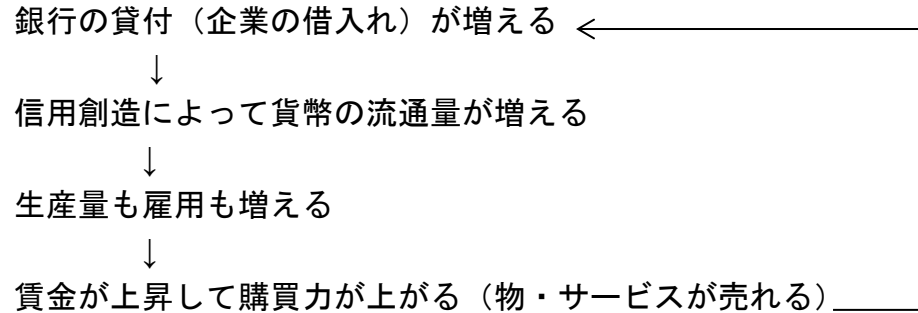
図2-1 景気的好循環・悪循環



## 2-1. お金の流通量と景気変動 (P69~P79)

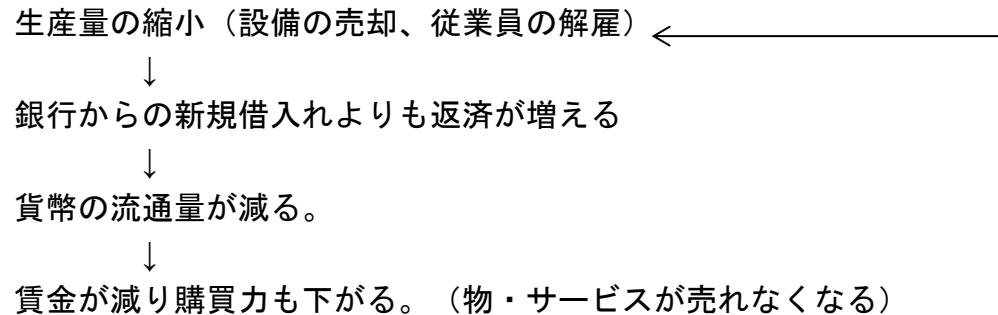
○お金の流通量が増える。  $\longleftrightarrow$  景気が刺激され、景気よくなる。  
(正のフィードバック関係)

・ 景気的好循環 (世の中の景気が全般に良くなると...)



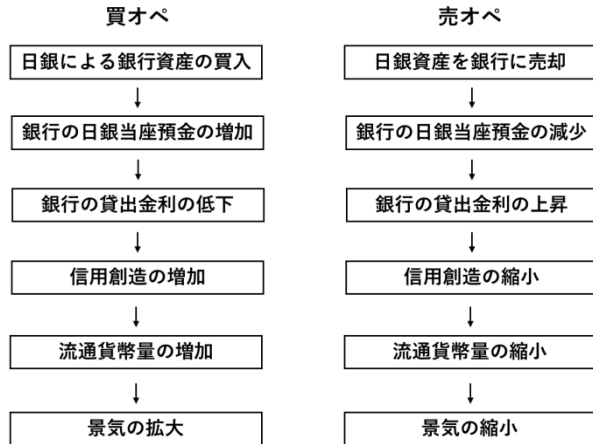
↓ 人々が必要とする量を越え、お金が金融資産へ流れてバブルが形成され、やがて崩壊する。

・ 景気悪循環



↓ 失業が拡大し、恐慌へ (世代間の格差、国民の不満が戦争へ)

図2-2 公開市場操作のねらい



## 2-2. 金融政策（P79～P86）

○景気の悪循環（不況）への対策は**金融政策と財政政策**がある。

↓  
金融政策は、金利をコントロールすることにより信用創造をコントロールするもので、主に**公開市場操作**という方法が用いられる。

### ・買いオペレーション（買いオペ）

日銀が銀行の資産（有価証券等）を買い取る。

↓  
その代金が支払われるので日銀当座預金が増え、銀行は金利を下げても貸出しを増やそうとする

↓  
貸出しが増え（信用創造が増え）、流通貨幣量が増え、景気が良くなるはず

↑  
不況の時は、たとえ**金利がゼロでも企業はお金を借りないので、効果がない。**  
※借りたとしても、お金は資産経済に投資されるので、**实体经济は回復しない。**

### ・売りオペレーション（売りオペ）

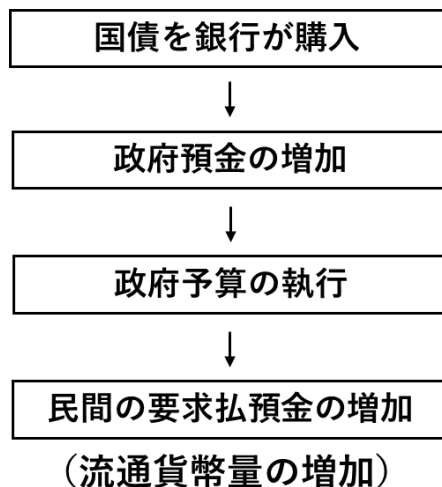
日銀が持っている資産を銀行へ売る。

↓  
銀行は、その代金を支払って日銀当座預金が減るので、金利を上げる。

↓  
貸出しが減り（信用創造が減り）、流通貨幣量が減って景気の過熱を抑える。

↑  
**金利が上がれば、お金を借りるのをやめる企業は出てくるので、効果はある。**

図2-3 広義の信用創造



## 2-3. 財政政策 (P86~P94)

### ○財政政策

不況になると、民間企業の生産が低下して信用創造が停滞して貨幣の流通量が減り、失業が増えて賃金が低下する



民間企業に代わって**政府がお金を借りて公的な事業を実施する** (大恐慌の後の日米)

### ○債券 (国債など) と借金について

債券と借用証は、転売して現金化できるかどうかという点が違い。発行者にとって、いつか返さなければならない債務であって利子が付きものという点では同じ。

### ○財政政策のプロセス

国が国債の発行によって用意した政府預金を使って、民間のモノやサービスを購入して民間に流通するお金の量を増やし (要求払い預金の増加)、景気を好転させる。



国債は主に銀行が買うので、銀行が国にお金を貸しているのと同じ。銀行貸付けが信用創造であるならば、銀行による国債購入も広い意味での信用創造。

### ○日銀の役割

国債を買うときに銀行は万年筆マネーを使えないので、日銀当座預金から支払う。



日銀は銀行から国債を買い取って、その代金を日銀当座預金に払い込み、国債を購入し続けられるよう資金を提供する。(国債の値下がりも防ぐ)



表向きは買いオペだが、実際は財政政策 (国債の大量発行) のサポート。

※日銀による国債の直接引き受けは原則禁止されている。(戦争を起こした反省から)

## 2-4. 財政政策の問題点 (P94~P105)

表2-1 利払費と国庫納付金

	日本政府 利払費	日本銀行 国庫納付金
2009年	9.4兆円	0.4兆円
2010年	10.0兆円	0.1兆円
2011年	10.0兆円	0.5兆円
2012年	9.8兆円	0.5兆円
2013年	9.8兆円	0.7兆円
2014年	9.8兆円	1.0兆円
2015年	9.7兆円	0.4兆円
2016年	9.4兆円	0.5兆円
2017年	8.9兆円	0.8兆円
2018年	8.7兆円	0.6兆円

※会計検査院の決算検査報告より作成

○財政政策の問題点...効率よく消費需要を増やしていない。

- ・理由1 国債には必ず利子が伴うから
- ・理由2 日本特有の重層的な雇用構造のせいで賃金が上がらないから

○国債に伴う利子

国債は、銀行、証券会社、保険会社などの金融機関が主に購入



国債の利子は、ほぼ金融機関の利益となり、その多くは株主の配当となる。



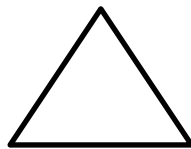
**富裕層**や**国際金融資本**を中心とする大株主に配布→実体経済ではなく資産経済へ流れる



貧富の格差を広げる原因となり、**国民の大多数の購買力を押し上げることができない。**

※国債の利子は毎年約9兆円であるが、日銀の国庫納付金は毎年5千億円程度であり、国債の利払い費はほとんど国庫に戻ってこない。(日銀が国債を買い進めれば進めるほど、国債価格が上昇し利益は減ることになる。)

○重層的な雇用構造 (高度成長期から現在まで日本の労働市場の特徴)



- ①大企業の正社員
- ②不安定な非正規雇用の労働者 (派遣社員、パートタイマー、臨時雇い)
- ③下請け・孫請けに雇用される労働者

※雇用の重層性が、景気調節弁となり、**階層別の賃金格差**が形成されて、**労働者全体の賃金を下方に引き下げている。**

## 2-5. お金を創ると格差が広がる (P105~P110)

### ○お金を創ると格差が広がるプロセス

銀行がお金を創るときは、誰かが必ず利子付きで借金をするときで、その利子が格差を広げる。



全体としてみれば、利子は常にお金の足りない人から、お金の余っている人へとお金を移動させて、結果的に格差を拡大させる。

### ○銀行が貸し付けるとき

銀行に入った利子は銀行の株主へ配当される。(誰からか預かったわけでもないお金を貸し出して利子をとっているの、まるまる銀行へ入ってくる)

### ○企業が借りる場合

企業は借りた借金の利子を商品の原価に含ませる。



その商品を買った消費者が負担している。



低所得者も含む末端の消費者から集めたお金が、お金の余っている銀行の株主へ流れる。

☆銀行貸し付けをする場合、利子を成功報酬にするとか、複利をやめて単利にするとか、担保を無くすなど再検討されるべき

### ○貨幣システムが銀行貸し付けに委ねられている



貨幣システム自体が貧富の差を広げている。



☆お金は、企業の営利活動から切り離された、公的なしくみで運営されるべき



## 第3章 お金の仕組みをどうすればいいの？

### 3-1. 信用創造の廃止 (P113~P118)

#### ○信用創造とは

- ・ 銀行がいつでも返すと言って預かったお金を貸し出すこと
- ・ 日銀当座預金による裏付けのない銀行預金 (預かり証)を貸し出すこと



#### ○信用創造をしないということは...

- ・ 預金者が銀行に預けた現金は日銀に当座預金として蓄えられて、その裏付のある要求払預金だけが、お金として世の中に流通する。←100%準備
- ・ 要求払い預金の裏付けとなる日銀当座預金は残しておかなければならないが、定期預金に匹敵する金額は、満期返済に支障がない限り貸し出すことができる。

#### ○銀行が破たんしたときのリスク

- ・ 貸し倒れのせいで銀行の日銀当座預金が要求払預金の金額を下回るまえに、営業停止にすると決めておくことで預金を守る。

↓ 預金保険制度はいらなくなくなるので、廃止するとすれば

- ・ 定期預金は保護されなくなるが、投資または利殖としての性格があるので、銀行の破たんリスクを負ってもらう。

#### ○銀行のビジネスモデル

銀行の役割...~~信用創造~~、金融仲介、決済



- ・ 銀行が培ってきた、企業の可能性を審査する能力と経済情報の収集能力を活用して立て直しを図る。

図3-1 公共貨幣と債務貨幣  
(バランスシート)

公共貨幣の発行

資産	純資産
公共貨幣	貨幣発行益

債務貨幣の発行

資産	負債
債務貨幣 (要求払預金) ↑ (政府預金)	債務 (借入金) (国債)

### 3-2. 債務貨幣とは (P118~P122)

○公共貨幣と債務貨幣 (山口薫博士が命名)

・公共貨幣...国(公「おおやけ」)が純資産として発行するお金



・債務貨幣...要求払預金や日銀券のように、債務(借金)とひきかえに発行されるお金

○要求払預金が債務貨幣である理由

①お金を借りるときに発生する要求払預金

・銀行に借入金という債務を負う

②国債の発行による政府預金が、予算執行によって要求払預金になる場合

・国債という政府の債務の発生により生まれる

③銀行にお金を預けることにより生まれる要求払預金

・元になる現金(日銀券)が債務と引き換えに生まれる債務貨幣だから

○日銀券が発行されるプロセス

・日銀が銀行から債務証券(主に国債)を購入するときに、その代金として銀行に支払われるものが日銀当座預金



・日銀券は、銀行が日銀当座預金を引き出すときに発行される。(日銀券は日銀当座預金の流通形態)

※債務貨幣を発行するときは、誰かが債務を負って、誰か(ほぼ銀行)にその利子を支払う。  
(日銀が銀行から国債を購入するときに、既に利益は銀行に移転しているので) ...詳しくは「2-4」を参照

図3-2 公共貨幣による累積国債の償還

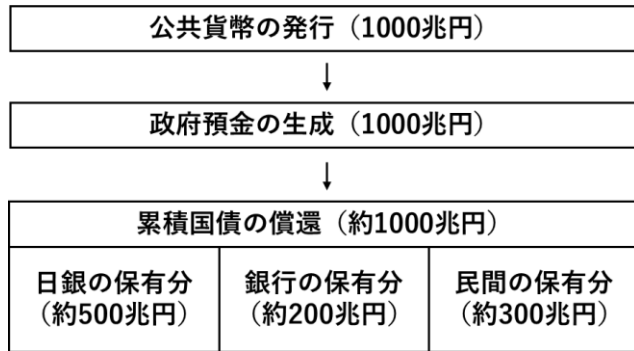
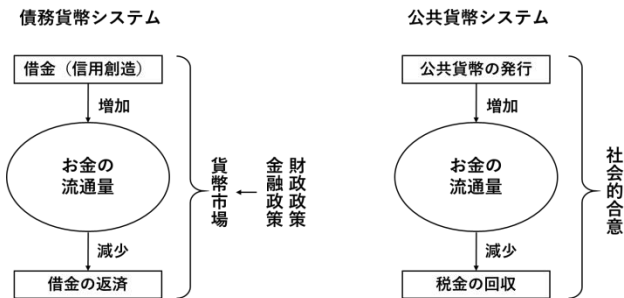


図3-3 債務貨幣システムと公共貨幣システム



### 3-3. 公共貨幣システムへの移行 (P123~P131)

○ 1000兆円の公共貨幣を発行して累積国債をすべて償還し、銀行を100%準備の状態にする。

① 500兆円の日銀保有の国債を償還



② 200兆円の銀行保有の国債を償還

・ 現在銀行には、要求払預金のうち、準備預金 (日銀当座預金) の裏付けのないものが330兆円あるので、130兆円 (330兆円 - 200兆円) を日銀から貸し付けて100%準備の状態をつくる。



③ 300兆円の民間保有の国債を順次償還していく。

○ お金の流通量のコントロール

・ 債務貨幣システム...借金をしたり、それを返済したりすることによって、お金の流通量が無秩序に変動するしくみ



・ 公共貨幣システム...公共貨幣の発行と税金の回収によって、お金の流通量をコントロールするしくみ

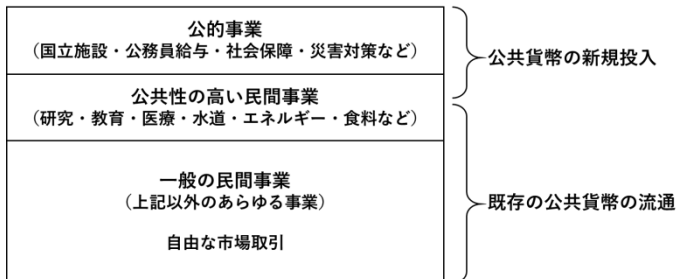
○ 日銀のあり方

・ 金融政策で貨幣量を調整する際、現在は営利企業なので、利付きの国債を、利子を払う必要のない日銀券で買って利ザヤを稼ぐ必要がある。



・ 金融政策で貨幣量を調整する役割は無くなるので、国有化して「公共貨幣庫」と改称し、政府の金庫番の仕事及び政府と銀行、銀行と銀行の間で資金をやりとりする役割は継続して担う。

図3-4 国の歳出内訳と公共貨幣の投入



### 3-4. 公共貨幣の発行「予算執行」(P131~P136)

○公共貨幣は、公的事业と公共性の高い民間事業に投下され、それが巡り巡って民間も含めたすべての事業や家計の間を流通する。

○国の生産能力(生産設備、稼働率、労働力)の上限までは貨幣量を増加させることができる。

○上限を超えても、必要なものには予算をつけなければならない。



それで悪性インフレが懸念される場合は、増税を考える

○予算をつける必要があるのは、仕事(例：道路工事)に対する要望ではなく、モノ(例：必要な道路)やサービスに対する需要

### 3-5. 公共貨幣の回収「徴税」 (P136~P146)

○世の中の貨幣量が生産能力の上限を超えていれば増税が必要となり、その上限までほど遠い状態であれば減税する。



景気が過熱ぎみのときは増税し、景気が停滞しているときは減税する。

○税金は公平・中立・簡素が原則なので、税金による政策的な誘導は考えない。



取引ユニフォーム税・すべての金銭取引（資金移動）に一律に課税し、それ以外の課税は一切しない。

①納税と徴税に要する人的資源を官民ともに大幅に節約する。

②自動的に景気変動を抑える作用がある。（図3-5参照）

③消費税との比較（累進性が高くなる）

・消費税は投資には課税されないが、高額所得者ほど余ったお金を投資に回すので、投資による金銭移動にも課税する取引税は公平性が高い。

・消費税は末端消費者だけが負担するしくみだが、取引税は生産財の消費に対しても課税されるので、生産者、問屋、小売店等も負担する。（図3-6参照）

④電子媒体を利用した電子公共貨幣（EPM）であれば、資金移動の際に、自動的に一定の比率のお金が税金として政府に送金されるシステムを組み込める。その際、個人のプライバシーを重視し、お金をやりとりした当事者のあいだにしか記録が残らないようにする。

⑤いまの国と地方の予算規模を維持するには、取引額の約4%の課税が必要

図3-5 取引ユニフォーム税の動作

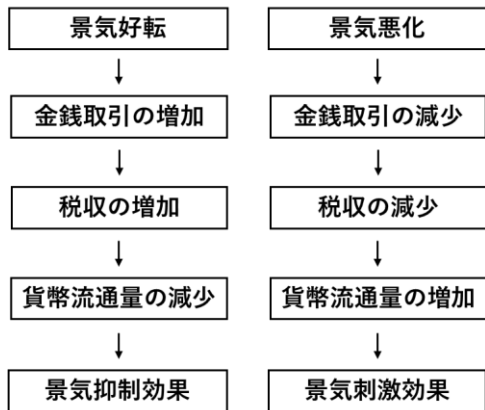
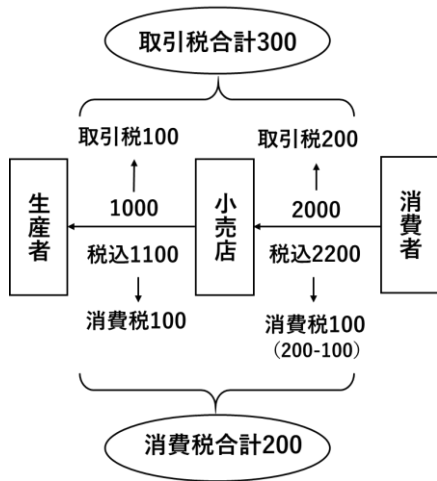


図3-6 取引税と消費税の比較  
(税率10%の場合)



### 3-6. 財政節度とは何か (P146~P156)

○ほどよい歳出と税収のバランスは、必ずしも歳出と税収を同じにすることではない。



景気が過熱しているときは、相対的に税収を増やし、反対に不景気ときは相対的に税収を減らす必要がある。景気の状態に合わせて貨幣量を増やしたり、減らしたりするのが正しい財政節度である



目安となるのは経済成長である。

{経済成長の例}

・ある分野の需要が増え、就業人口が増えたとき

→その報酬に相当する貨幣量が増えなければデフレになる。

・技術革新と省力化によって失業者が出たとき

→商品価格が低下または企業利潤と貯蓄の増加→貨幣量が増えなければデフレになる。



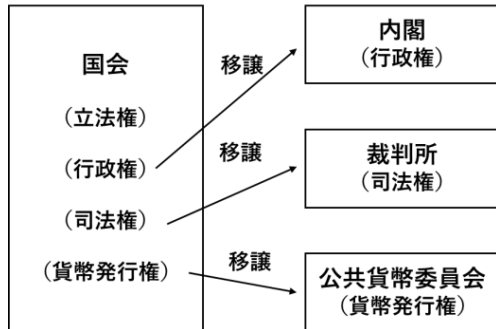
○経済成長 (貨幣経済の拡大) に対しては、その分の流通貨幣量を増やさなければ、デフレによる不況になってしまう。これに対して、経済が成長していないにもかかわらず流通貨幣量を増やしてしまうと、提供される商品量よりも流通貨幣量が増えてインフレになってしまう。

☆貨幣は経済成長の度合いに合わせて適切にコントロールされる必要がある。

※失業者と遊休設備が増えて、国が本来持っているはずの生産能力 (潜在GDP) よりも、実際のGDPが低下してしまったときは、潜在GDPを基準にして貨幣を流通に投入していく。

### 3-7. 公共貨幣システムの実施体制と心への影響 (P157~P168)

図3-7 四権分立



#### ○実施体制

・本来、貨幣発行権は銀行などではなく国に属する。日本の現行法では政府に属しているが、国民の代表である国会へ移管する。



・国会に直属し、一定の独立性をもった「公共貨幣委員会」が、公共貨幣の発行量や徴税率を定める。



・公共貨幣委員会の下に公共貨幣庫をおき、政府の銀行としての役割や銀行間の決済等を担う。

☆貨幣の発行（歳出）や回収（徴税）の実施にあたっては、公開と簡素が大事→（複雑で不透明な「特別会計制度」は廃止する）

#### ○お金に対する渴望について

・人は何かに欠乏することがあたりまえになっていると、自分の欲望が限りないものだと勘違いしてしまう。←経済的困窮への恐怖や不安から必要以上にお金を求めてしまうため



・お金に対する渴望は、人間の本性のなかに組み込まれているのではなく、社会的に生み出されるもの（そもそも、お金自体が社会的な産物）



・社会のしくみの変更によって無くなる可能性←公共貨幣システムへの移行による経済格差の縮小、社会保障の充実、育児・教育への補助拡大、セーフティーネットの強化等により、恐怖・不安が大幅に軽減されるため



# 補章 お金にまつわるいくつかのお話

## 補-1. MMT及びブロックチェーン技術について (P171~P186)

### ○MMT (現代貨幣理論) とは

- ・ 自前でお金を発行している国は、悪性のインフレにならない範囲でなら、国債発行によって財政支出を拡大して財政赤字になっても問題がないという考え方



- ・ 国債は最終的には政府の一部である日銀が買うので、予算を執行した後は、政府全体 (政府と日銀の統合政府) としてみると国債は帳消しになる。→政府がお金を発行して民間に支払ったのと同じ

### ○MMTの問題点

- ・ 日銀は政府の一部ではなく、独立した認可法人である。上場したことで営利企業としての性格を持ち、赤字になってまで国債を買い進めることはできないので、全ての国債を買い取るという設定は成り立たない。



いつかは国債を買い支えることができなくなり、財政は破綻する。

※政府の借金を政府の貨幣発行であるかのように読み替えて、現状維持で何の問題もないという楽観論に立っている。

### ○ブロックチェーン技術とは

- ・ 電子媒体を利用したお金 (デジタル通貨) による貨幣システムとは



数値 (金額) の動きが記録された台帳 (データベース)



その記録を、一つのホスト・サーバーではなく、ネットワークでつながれた複数のコンピューターで管理する方法 (分散台帳型データベース)

- ・ 間違った情報や偽りの情報が入っても、全体としては正しい情報だけが選択されて生き残るしくみになっている。
- ・ システムがダウンするリスクは少ないが、処理速度が遅く、データが増え続けるというデメリットもある。